

宇宙波動を整える言霊の力

今、毎日のニュースでは、新型コロナウイルスの感染拡大で、世界中が恐怖と混乱に陥っていることが報ぜられています。

最新の現代医療の力でも抑えられず、むしろ先端の医療従事者が多く感染して、病院ごと閉鎖になり、正に日本の医療も崩壊の危機と言うのです。

また優れた軍勢力や原子爆弾の開発力による隣国への威圧、脅威を与える力も、このウイルスには、何の手立ても出来ないようです。全ては物と金で成り立っているという世界経済も危うくなって来て、一方、借金だらけの日本国の国家予算から、何十兆円というお金を、国民の救済のために使わなければならない現状は、日本人として何を覚り、気付かなければならないのでしょうか。

カレンダーからのメッセージ

今年の光輝書法会の壁掛けカレンダーの3、4月の書画を見て、山本はのけぞるほどの驚きを覚えました。正にコロナウイルスそのものなのです。

昨年9月に描いた図柄の意図は、

「薄墨をポトンポトンとたらし、それを人類の心魂の汚れ、曇りと表し、その上から、天(神)の愛として、金色の光を意味する金の絵の具をポタポタと落して、その汚れ曇りを、いろはとひふみの言霊と共に消す」と言う祈りの意味で描いたものでした。

昨年の9月に、今年の3、4月にこんな事態になるなどとは、予知、予見能力などまったくない山本が、分かるうはずありません。ただ、考えられることは、6枚書き上げた書画を、建島女史に順番をお任せしたことによって、彼女の天に感応する感性が、この書画を3、4月に入れさせたと考えています。

「何気なく 描かされている カレンダー
未来を示す ことも知らずに」

先月3月1日に書かせて頂いたブログの歌ですが、予知能力のない山本でも、分からぬままに「書かされている」ことがあるのかも知れません。

ところが先日、当会の打ち合わせで、とてもないことを思い出したのです。

日本が国難に襲われた時、水面下で全国の神社仏閣に唱える様に指令が出るという「護国三部経」の一つ、「**金光明最勝王経**」の事でした。この経文の中には、日本最古の漢字で書かれた「いろは」が存在しているのです。

とするならば、国難が起こった時には全国の神社や仏閣で「いろは」が唱えられていたことになることに気付いたのです。

背筋に熱いものが走りました。

「**金光明最勝王経**」正に金の光によって全て平和に収める、このカレンダーの意味ではないか！更に、いろは・ひふみを称えることは、吾が会員諸氏はすでにやってくださっている。光輝書法会のこれまでやってきたことが、今こそお国の為に、否、世界人類の救済の為に、お役に立つのだと言うことに気付いたのです。そこで会員の皆様にお願ひです。この時期、出来れば毎日いろは・ひふみを何枚でも書いて頂きたいのです。百匹目の猿現象が起こって、コロナウイルスが消えていく……。

「人が発した言葉は波動となって宇宙の隅々まで行きわたり、空間を揺るがすのだ」

これは山本の書に対する推薦文を書いてくださった荒俣宏氏(博物学者、小説家)の言葉です。いつも申し上げる通り、一枚書けば先ずご自分が清まり、ご先祖、家、土地、空間が清まり、近所周辺も清まる。言霊の力の偉大さは皆様ご存知の通りです。ウイルスも波動です。

この呼吸書法の波動は、宇宙空間を清らかに整える故に、全てが健全となり、人が健康になり、平和をもたらすものと観じています。皆様のご協力をお願いいたします。